

第5回高安自然再生協議会の要約

1. ニッポンバラタナゴの生息状況

保護池以外のニッポンバラタナゴは減少している。
減少の要因は、池の管理不足による水質悪化である。

2. 高安山の森林整備と防災

森林整備と防災の関係

森林整備を実施することと土石流を抑制することの関係はまだ明らかになっていない。
間伐を実施し、間伐材を土留めになるように木と木の間に留め、隙間に枝葉を詰めること
によって、土砂の流出を防ぐことができる。

森林整備を実施することによって、ゲンジボタルやサワガニが増加した。

大阪府は平成28年から森林税を4年間、府民から年間300円徴収する予定である。

この税金は防災のための森林整備に充てられる。

村の形成地は、安全で水と食料とエネルギー(燃料)が確保できる場所にできている。

高安地域の村も同じである。

次回、森林整備と防災に関して齊藤氏から話を聞く。

3. 久宝寺緑地の自然再生について

住民が慣れ親しむ心字池におけるニッポンバラタナゴの保護と釣りをする憩いの場として
の共存ができるか。

新しい遊水地に造成されるビオトープについて

4. 八尾市の魅力

高安地域には国指定の千塚・心合寺山古墳がある。

八尾市の魅力創造室は観光協会と協力して、八尾市全域の魅力を探し、広報している。

高安地域には歴史文化としての高安能や高安城跡、河内木綿の和綿づくりなどがあつた。

高安は八尾市で唯一残る自然と人が共生可能な里山である。

大阪府の花屏風計画の中心地として高安の花弁栽培地

ニッポンバラタナゴという絶滅危惧種が現在の生息し、保護活動によってゲンジボタルや
サワガニなどの生物多様性が再生されている地域である。

5. 高安の自然再生とまちづくり

自然再生することによって持続可能なまちづくりが可能である。

持続可能なまちづくりの条件も、もともと村が成立して条件を満たす必要がある。

安全で、水と食料とエネルギーが確保されるまちづくりを考える。

森林整備と防災、地場産業である花卉栽培と造園業の活性化、若者と老人が共に生活できるまちづくり。

観光やエコツーリズムで人を集めるためには地元を紹介する拠点づくりが重要である。

例えば、心合寺山古墳や歴史民俗資料館などがその拠点になり、地域の魅力を広報する。

玉祖神社周辺で飲食店(コーヒの店)を出す方法はあるか。

空き家や休耕地を利用する。

市街化調整区域でIターン組が店を出すことができるのか。

地場産業としての河内木綿の可能性や地元のお米を“きんたい米”としてブランド化する。

無印商品としてオーガニックコットンを使ってもらおう。

ブランド化にはストーリー性が重要である。

6. まとめ

これら1つ1つの活動が単独で実施されていることが問題である。

これらの内容をつなぐ活動が必要である。

例えば、エコツーリズムで服部川から玉祖神社まで歩き、歴史と自然観察をして、ゴールするとキンタイ米で作ったおにぎりや地産された野菜の漬物などが待っていると、きんたい米がおいしさに決まっている。

小グループの交流会が必要

まずは懇親会からということで今日7時30分から忘年会です。

西武百貨店8階 中華彩園